

報道関係者 各位

平成 26 年 2 月 4 日 日本科学未来館

企画展「トイレ？ 行っトイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい」 平成 26 年 7 月 2 日(水)～10 月 5 日(日)開催

につほんか がくみらいかん 日本科学未来館(略称: 未来館、館長: もうりまもる 毛利衛、所在地: 東京都江東区青海)は、平成 26 年 7 月 2 日(水)～10 月 5 日(日)まで、企画展「トイレ？ 行っトイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい」を開催します。

本展は、今まで大きな声で語られることのなかった「トイレ」という存在に注目します。自分のうんちの匂いや形など身近な話題から、排泄物と地球環境の問題に至るまでさまざまな情報を見つめながら、環境に負荷をかけないトイレのシステムとは何か、そして私たち人間にとって幸せなトイレとはどのようなものかを探っていきます。

フタの自動開閉にセルフクリーニング機能、賢くて洗練された日本のトイレ——そのお陰で私たちは快適で清潔な生活を送ることができています。

しかし、日本でもトイレはさまざまな課題を抱えています。学校で子どもがなかなかトイレに行けない問題や、介護の現場で大きな負担になっている排泄の問題などは切実です。一方、世界に目を向けると、世界の人口の約 25 億人がトイレを使えない環境にあり、不衛生ゆえに多くの子どもが命を落としています。快適な排泄は人間の尊厳にも関わる大切な問題であり、その人の年齢や生きる環境によって、理想のトイレのあり方は異なるのです。

また地球環境の面からは、下水処理の問題があります。排泄物を含む下水はそのまま海に流せないため、浄化の必要がありますが、中には資源として価値のあるリンが含まれています。日本では生態系への影響を少なくするべく、リンは取り除き、多大なエネルギーをかけてほぼ完全に浄化しています。しかし排泄物から資源を回収・活用するシステムができれば環境への負荷を減らしながら、貴重な資源を確保できます。

このように、日常から地球規模の課題まで、あらゆるスケールで私たちの生に関わるトイレの問題。2050 年には人口が 100 億人を突破すると考えられている今こそ、「幸せなトイレ」という存在について、堂々と、オープンに、そして愉快地に語り合うときではないでしょうか。

会場では、うんちに扮して巨大トイレのすべり台を下りながら下水処理の旅をしたり、理想の形のうんちをねんどで作ったりと、うんちとトイレを通して、自分、そして地球を見つめ直す体験ができます。

会期中には、親子向けのワークショップやトークイベントも予定しています。

■概要■

会 期 平成 26 年 7 月 2 日(水)～10 月 5 日(日)

開催時間 午前 10 時～午後 5 時(入館は閉館時間の 30 分前まで)

場 所 日本科学未来館 1 階 企画展示ゾーン a

休 館 日 火曜日(ただし、祝日と夏休み期間中は開館)

入 場 料 大人 1200 円(予定) (18 歳以下と団体料金の設定あり)

※常設展示入場可 ※6 歳以下の未就学児は無料 ※障がい者手帳所持者は本人および付き添い者 1 名まで無料

主 催 日本科学未来館、株式会社フジテレビジョン

特別協賛 株式会社 LIXIL

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraiKAN.jst.go.jp	日本科学未来館 事業部 展示企画開発課 広報普及担当 (press@miraiKAN.jst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150